

○ 草の根パートナー型

平成17年度第1回 採択内定案件

I. 提案事業の概要	
1. 国名	バブアニューギニア
2. 事業名	ガルフ州地方村落自立開発支援プロジェクト
3. 事業の背景と必要性	高温多雨でマングローブの生い茂る湿地帯の中にあり、地区内の交通はすべて水路に頼っている。交通の便が悪いため農作物の市場販売も容易でなく、住民は自給自足に近い暮らしを余儀なくされている。川の水も濁っており、安全な飲み水がない。衛生・医療の状態も極端に悪く、感染症や母子保健の諸指標も著しく低い。水や衛生条件の改善、その他の訓練により、住民の健康を守り、自立的支援を緊急にすすめる必要がある。
4. 事業の目的	コミュニティのリーダーたちに対するリーダーシップトレーニングを行い、住民の全員参加によるプロジェクトの計画・実施のすすめ方を議論し、自立開発の体制の基盤づくりを行なう。 これに続き、安全で衛生的な飲料水供給施設の建設、保健衛生一般教育の実施と衛生施設の建設を行い、村の衛生環境の向上を図る（トイレの建設、マラリア対策蚊帳配布を含む）。またこれら水供給及び保健施設の維持管理能力の教育訓練とこのための維持管理システムの構築をすすめる。 また村落ヘルスボランティア（VHV）の教育訓練と、VHVセンター（出産助産施設）の建設を行い、村における安全な出産、母子保健管理体制を整備する。これらの活動を通して、村人自身の手による水および保健衛生体制の整備とともに、コミュニティの自立的かつ持続的な開発ができるようにする。
5. 対象地域	バブアニューギニア国ガルフ州ケレマ及び周辺地区、計6ヶ所のコミュニティ
6. 受益者層	対象地域の全住民（すべての部族・宗教）。推定裨益人口 約3,000人。 特に弱者である子供と女性が受益するように配慮する。
7. 活動及び期待される成果	<ol style="list-style-type: none"> 1. リーダーシップ訓練によるコミュニティのキャパシティ・ビルディング： 5コミュニティ 2. 安全な水にアクセスする人口の増加（雨水タンク、導水システム、浅井戸）： 6コミュニティ 3. 水施設の維持管理の能力の形成： 5コミュニティ 4. 保健衛生教育訓練による地域住民の衛生管理能力の形成： 5コミュニティ 5. 母子保健・出産体制の整備（助産婦ボランティア養成訓練/出産センター設置）：5コミュニティ
8. 実施期間	2006年6月～2009年3月 （2年10ヶ月）
9. 事業費総額	50,000千円（予定）
10. 事業の実施体制	救世軍社会事業団（社会福祉法人）が実施責任団体となり、日本人のプロジェクト・マネージャーおよびプロジェクト・スタッフを派遣する。同国で数多くのコミュニティ開発の実績を持つ「救世軍バブアニューギニア」（公益財団）と協力しつつ実施する。
II. 実施団体の概要	
1. 団体名	社会福祉法人 救世軍社会事業団
2. 活動内容	貧困層及び身体的・精神的・社会的なニーズを持つ人々への支援。 （社会福祉施設運営、途上国コミュニティ開発支援、災害緊急支援など）
3. 対象国との関係、協力実績	同国において、コミュニティ開発の分野（職業技能訓練、女性開発のための技能訓練、識字教育など）で、多年の協力の実績がある。